

学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県

富山県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	入善町立入善小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	20
児童数	55	69	79	63	63	56	5	390	

研究の概要

1. 研究主題

自らめあてをもち、主体的に学ぶ子どもの育成
 - 一人一人のよさを伸ばす支援の在り方 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年の算数科（子どもの理解度に差が出やすい教科であるため）を中心に

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自らめあてをもち、楽しく学ぶ子どもを育成するための支援の在り方 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が意欲的に取り組むことのできる教材を工夫することにより、子どもは見通しをもって問題を解決していく楽しさを味わうことができる。 一人一人の思いや願いを大切に、互いに高め合う学習過程を工夫することにより、子どもは意欲的に追究することができる。 少人数授業やTTなどによる協力的な指導体制、個に応じた支援を工夫することにより、子どもは主体的に学習を進めていくことができる。 一人一人のよさを認め、学習状況を適切にとらえる評価を工夫することにより、子どもは自信をもち学習を広めることができる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通した単元の目標分析表及び評価規準などの作成 意識調査、実態調査（子ども、保護者）と富山県小学校教育研究会の学力調査および教研式標準学力検査の実施と活用 個に応じた指導のための教材開発（発展的な学習および補充的な学習）、指導方法、学習形態の工夫 少人数指導などを通し、子どもの姿から研究を実践する。 3部会（低・中・高学年部会）を組織し、授業研究を通して主題の解明に努める。全体研修会では、研究の進め方や考え方の共通理解を図る。
平成15年度	<p>テーマ 自らめあてをもち、主体的に学ぶ子どもを育成するための支援の在り方 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が意欲的に取り組み、かかわることのできる教材を工夫することにより、子どもは見通しをもって問題を解決していくことができる。 一人一人の思いや願いを大切に、互いのよさを認め合う場や個に応じた支援を工夫することにより、子どもは主体的に追究していくことができる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通した単元の目標分析表及び評価規準などを見直し作成する。 意識調査、実態調査（子ども、保護者）と富山県小学校教育研究会の学力調査および教研式標準学力検査を実施する。前年度との比較検討・分析をし、指導に生かす。 個に応じた指導のための教材開発（発展的な学習および補充的な学習）や指導方法、学習形態を工夫する。 少人数指導などを通し、子どもの学力や学習意欲、態度の変容から研究を

	<p>実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科の授業実践を通して伝え合う力を育成するための取り組みをする。 ・ 3部会（低・中・高学年部会）を組織し、授業研究を通して主題の解明に努める。全体研修会では、研究の進め方や考え方の共通理解を図り、研究実践の中で改善を図る。
平成16年度	<p>テーマ 自らめあてをもち、主体的に学ぶ子どもを育成するための支援の在り方 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人が意欲的に取り組み、かかわることのできる教材を工夫することにより、子どもは見通しをもって問題を解決していくことができる。 ・ 一人一人の思いや願いを大切に、互いのよさを認め合う場や個に応じた支援を工夫することにより、子どもは主体的に追究していくことができる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通した単元の目標分析表及び評価規準などを見直し作成する。 ・ 意識調査、実態調査（子ども、保護者）と富山県小学校教育研究会の学力調査および教研式標準学力検査を実施する。前々年度や前年度との比較検討、分析をし、指導に生かす。 ・ 個に応じた指導のための教材開発（発展的な学習および補足的な学習）や指導方法、学習形態を工夫する。 ・ 少人数指導などを通し、子どもの学力や学習意欲、態度の変容から研究を実践する。 ・ 算数科以外の他教科の授業実践を通して主題の解明にあたる。 ・ 3部会（低・中・高学年部会）を組織し、授業研究を通して主題の解明に努める。全体研修会では、研究の進め方や考え方の共通理解を図り、研究実践の中で改善を図る。

(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上フロンティア推進委員会を研究組織に位置づけた。 （校長、教頭、教務、研究主任、研究副主任、学年主任、特殊学級担任）

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>少人数指導による子どもの算数に対する意識の変化と学力検査等の結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2回のアンケート結果から、算数が「分かるようになった」「自信をもった」という問いに対して、「そう思う」「まあまあそう思う」と答えた子どもがおよそ90%の割合でいた。このことは、少人数指導で、基礎・基本の定着に努力してきた成果であると思われる。 ・ 4月に行った富山県小学校教育研究会の学力調査の結果（算数）では、前年度と比較して平均点が5点上がった。また、実施したすべての学年で「表現・処理」「知識・理解」の観点について県平均と同じかやや上回った。 <p>子どもの実態や学習内容に応じた少人数指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任と少人数指導担当者との連携を密にし、子どもの実態や学習内容に応じて人数を均等にしたり、習熟の程度や興味・関心に対応したりして少人数学習集団の編成を柔軟に工夫してきた。また、同一単元の中でも学習形態を多様に設定するなどの工夫をしてきた。その結果、自分に合ったコース選択ができる子どもや算数の学習に楽しさ・満足感を感じている子どもが増えた。 <p>習熟度や興味・関心の違いに応じた発展的な学習の工夫と算数的活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的な学習を盛り込んだ単元構成を考え、多様な学習活動を通して、個に応じたきめ細かな指導の充実に努めた。また、数量や図形についての作業的な活動、体験的な活動、具体物を用いた活動、発展的な活動などの算数的活動を単元構想に位置づけ、ねらいを実現できるように工夫した。 <p>基礎学力の定着を図る取り組みの工夫と学習規律の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週2回（11月より）の朝の時間を「まなびタイム」とし、練習問題を繰り返し行ったり、「数と計算」領域の学習時に百マス計算を取り入れたりすることで、計算の技能の高まりが見られた。中でも高学年においては、「表現・処理」の観点の定着度が90%を超える児童が8割を占め、大きな成果が見られた。 ・ ハンドサインや発表の仕方、見やすく自分にとって活用しやすいノートの書き

方について共通理解を図り、全校体制で取り組んだ。また、国語科の授業実践を通して、伝え合う力の育成に努めた。

2. 今後の課題

個に応じた指導のための教材の工夫

- ・ 子どもに身に付けさせたい力を明確にするとともに、子どもらしい見方・考え方を予想しながら教材研究に取り組んでいく必要がある。
- ・ 引き続き、各社の教科書の学習展開を比較・検討しながら教材研究をさらに進め、一人一人が意欲的にかかわることのできる教材作りが必要である。

互いのよさを認め合い高め合う場の工夫

- ・ 子どもの思いや願いを的確にとらえ、子ども同士がかかわり、共に高め合うように、一人一人に応じた支援を一層工夫していくことが大切である。
- ・ 一人一人が自分なりの考えで追究していこうとする意欲を大切に。さらに、互いによさを認め合いながら満足感や充実感を味わうことができるような話し合いの場を工夫し、よりよいものを創り上げていくことができるようにしていくことが大切である。

指導に生かす評価の工夫と評価規準の見直し

- ・ 「指導する 評価する 手だてを講じる」の流れを大切に、指導に生かす評価の工夫に努める必要がある。
- ・ 子どもが学習の手応えをもつことができる自己評価カードの工夫に努めるとともに、教師はその記述内容を十分に分析して、次時の指導に生かす必要がある。
- ・ 「単元の評価規準」及び「学習活動における具体的評価規準」を見直し、単元の目標の実現状況をよりの確にとらえることができるようにする必要がある。

・ 学力把握のための学校としての取組

- ・ 教研式標準学力検査CRT（算数） 年1回 2月実施

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業等

第2学年授業研究

- ・ 日 時 平成15年6月19日（木）
- ・ 場 所 入善小学校
- ・ テーマ 一人一人が自分なりの方法や考えで意欲的に問題を解決していこうとするための支援の在り方
- ・ 対 象 入善町小中学校 * 指導助言者 魚津教育事務所指導主事

第3・6学年公開授業

- ・ 日 時 平成15年11月11日（火）
- ・ 場 所 入善小学校
- ・ テーマ 一人一人が算数的活動を通して主体的に課題に取り組み、問題を解決していこうとするための支援の在り方
- ・ 対 象 県内の小中学校の先生 * 指導助言者 魚津教育事務所指導主事

- ・ 11月11日の公開授業には、県内小中学校からおよそ50名の先生方に参加していただき、本校の取り組みに対して様々な意見をいただいた。

普及・広報活動等

- ・ 学校たよりで取り組みの実際を紹介し、家庭への協力を呼びかけた。
- ・ 学校のホームページに学力向上フロンティアのコーナーを設けた。
- ・ 研究紀要を作成し、県内フロンティアスクール、町内小中学校などに配布した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 14年度からの継続校
- 【学校規模】 13～18学級
- 【指導体制】 少人数指導、TTによる指導
- 【研究教科】 算数
- 【指導方法工夫改善に関わる加配の有無】 有